

# 20m040発表記録

# 準備

"General" で会議中

32:51

退出

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (23 人) 全員をミュート

北 開  
鮎 鮎  
河 河  
笠 笠  
関 関  
橋 橋  
橋 橋  
山 山  
小 小  
松 松

清 橋 水

濱 鮎 野

山 村 谷

+2 笠 豊 松 橋 船 関 藤 北 中 東 小 松

# 教育技術をめぐる論争

18:43

"General" で会議中

制御を要求

退出

自動保存

MS 明朝 (本文)

ホーム 挿入 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 桜聞 表示 ヘルプ

共有 コメント

名前を入力

招待を共有

この会議で (23 人)

全員をミート

1/2 ページ 781 文字 日本語

(1) 「新しい時代の教育方法」から  
全体の要点●  
①  
ポイント④  
1) 1980 年代に向山洋一は、「教育技術の法則化運動」を開発し、教育技術とは「できるだけ少ない手順で教えられるようにする修飾によって身につけた教える側の行為」と規定された。  
2)  
2) 法則化運動は、齊藤喜博が提起した教育技術は教師達に共有財産化できないと批判し、民間教育研究団体に対して、授業研究の弱さや欠落を批判した。  
3)  
3) 1988 年には民間教育研究団体における授業づくりを歴史的「授業づくりネットワーク運動」が発足し、リーダーであった藤岡田勝は、教育内容、教材、教授行為、学習者の 4つのレベル・次元で授業をとらえるようになした。  
4)  
4) 林竹二は、齊藤喜博の授業論に対し、子どもの全体に資質に働きかけるという授業の本質を見失う危険があると別の角度から批判をした。  
②  
2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から  
全体の要点●これから求められる能力

+15 鮎 野 谷 水 山 村 清

# 教育方法論 20m 班まとめ (授業者が書くこと)

第4回

## 各班ワークシート複数資料用(まとめ)

### 1) (班内) まとめ

班のテーマ (教育技術をめぐる論争)

#### ■テキスト (新しい時代の教育方法)

まとめ ( )

- ・ 1980年代に向山は「教育技術の法則化運動」を展開した。  
向山の教育技術では、つまり少しありで教えるためには自分たちの教員個別の行動ではなく、

#### ■肯定的 web ( 法則化運動の理念 ) まとめ ( )

- ・ 教育技術はさまざまである。
- ・ 完成された技術は存在しない。

#### ■否定的 web ( 法則化運動の理念 ) まとめ ( )

- ・ 多い技術から適切な方法を
- 選択するのは教員自身である。

#### ■班としての要約

まとめ ( )

- ・ 教育技術はさまざまである。
- ・ 完成された教育技術はない。
- 常に改善していく必要がある。

| キーワード  | 10~20語 | 明日中に    | 概念系統図  |
|--------|--------|---------|--------|
| ・ 教育技術 | ・ 向山洋一 | ・ 法則化運動 | ・ 藤原信勝 |
| ・ 教科   | ・ 藤岡信勝 | ・ やのいわ  | ・ 教育内容 |
| ・ 教材   | ・ 教授行為 | ・ 学習者   | ・ オリケニ |

2) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 教育目標とは子どもたちの  
達成内容についてどのようにそれを  
つらじこむ目標ではあるが、内容  
と手段の掛け合せである。

2\*\*) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 主導的・対話的で深い学び  
を了アクリティラーニングで用いて  
授業を行なうのは大切である。

■ 5段階班の自己評価 ( 4 )

# 教育目標に関する基本的な考え方

"General" で会議中

34:47

制御を要求

退出

ファイル ツール 表示

第4回 教育方法論 事前学習.docx - Word

参加者

名前を入力

招待を共有

この会議で (23 人)

全員をミュート

北 開

鮎 鮎

河 河

笠 笠

関 関

橋 橋

橋 橋

山 山

小 小

松 松

教育を構成しているものは、「教育目標・内容、教材・教具、授業過程・学習形態、教育評価」の要素または視点である。

ポイント ①教育の目標は、与えられたものに対して子どもがどのような内容について、どのような目標を立てるのかといった、内容と能力の掛け合わせとして考えることが出来る。

②教育目標は、背景となる学問の系統性、子どもの発達の順序性と構造、現代における社会の要請の3つの要素から決定される。

③教育目標の特質として、到達目標、方向目標、体験目標といった区分が日本では用いられている。

④教育目標の性格として、教育目標は教材・教具の選択や構成、学習過程や指導法の選択を方向づけ、教育評価の基準と方法を規定する点で基準性を持つ。

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

教育目標を明確にすることは、教育課程の編成をする上で重要なことである。

ポイント ①教育目標は、法令に定める学校教育の目的や目標及び教育課程の基準に基づき、各学校が当面する教育課題の解決を目指し、両者を統一的に把握して設定することが重要となる。

②各教科において、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理し、どのような資質能力の育成を目指すのか明確にしている。

③各学校は、生徒や学校、地域の実態を把握したうえで、それらの実態や教育の狙いを十分に反映した具体性のある教育目標を設定することが必要である。

④各学校の教育目標を含めた教育課程についての基本的な方針を、家庭や地域とも共有していくことが重要である。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

これからの方針は、明確かつ具体的な目標設定の下で実践した教育活動について、児童生徒や保護者等の意見や意向を反映しながら、学校運営の充実・改善を図るなど、PDCA サイクルに基づいた学校運営を行う必要がある。

ポイント ①学校運営についての明確なビジョンの下で、学校教育目標や学校の「中・長期目標」、前年度の評価結果から洗い出した成果や課題等を基に、今年度、学校が特に力を入れて取り組もうとする「重点目標」

+15 谷 小 村 橋 清 松 水

# 教育方法論 20m 班まとめ (授業者が書くこと)

第4回

## 各班ワークシート複数資料用(まとめ)

### 1) (班内) まとめ

- 班のテーマ (教育目標に関する  
教育評価について)
- テキスト (新しい時代の教育方法)  
まとめ (教育目標・内容、教材・教具、授業過程  
・ 学習形態、教育評価  
・ 教育の目標は、内容と能力の掛け合わせである。  
・ 教育目標は、背景となる学問の系統性、子どもの  
発達の順序性と構造、現代における社会の要請  
から決定される。  
・ 到達目標、方向目標、体験目標の順序で開け  
るといい。

### ■肯定的 web (学習指導要領)

#### まとめ (教育目標の明確化と、教育課程の 編成におけるべきこと)

- 教育目標は、各学校が当面する教育課題の解決を目指し  
て統一的に把握することを重要とする。
- 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」  
「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理  
される。

2) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことを述べよ。

■ 教育目標は、各学校で定められて子どもの  
ところが、基本と子どもの変わらぬ、  
を感じました。

### ■否定的 web (小口單 学習評価について)

#### まとめ (教育目標は、PDCAサイクルに基づく 学校運営と結びつける。)

- 学校運営は、「中・長期目標」を基に「重点目標」を設定する。
- 重点目標実現のために、「具体的方策」を設立する。
- 具体的方策を評価するのに、客観的な評価基準を設ける。
- 診断・分析を行い、目標の再検討をする。

これらは児童生徒や、児童生徒の保護者等の意見や  
意向をもとに、直すべきところを改善する目的である。

### ■班としての要約

#### まとめ (教育目標)=(人生役立つことを養う)

- コミュニケーションや思のやりの心を養う
- 自主性・自觉性を養う
- 健康に関する目標を立て、健康維持をする。
- 課題を見つめ、解決する力について大事にする。

### キーワード 10~20語

- 教育目標・内容・到達目標
- 教材・教具・方向目標
- 授業過程・体験目標
- 学習形態
- 教育評価

### 明日中に 概念系統図

- 学習過程
- 指導法
- 教育評価

2\*\*) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことを  
のべよ。

■ 教育目標は、課題の発見やその後の  
人生に役立つことを気付きました。

# 教育目標・内容の諸相

59:19 "General" で会議中

制御を要求

退出

自動保存

教法第4回予習「教育の目標・諸相」

最終更新日時: 日 19:31

参加者

名前を入力

招待を共有

北 開

鉢 鉢

河 河

笠 笠

閑 閑

橋 橋

橋 橋

山 山

小 小

松 松

水 水

MS 明朝 (本文 10.5pt)

フォント

全体の要点

学校では何を学び、教員はどのように児童・生徒を評価してゆくのか。また、学習者が学習するにあたって必要な知識、ツールとは一体何なのか？

ポイント 1)→中世欧州での学びにおいて、一般的能力(記憶や推理、想像力)を高める“形式陶冶” or 各々の領域ごとに知識や技能を獲得させようとする“実質陶冶” p108-110

2)結果だけでなく、計画やそこにいたるまでのカリキュラム編成は適切であったのかを評価する→“カリキュラム評価” p111-112

3)ある問題を解決するためには、その課題を構成するより単純な下位課題を解決しなくてはならない。このとき、どのような知識やスキルが必要かを分析することを“課題分析”という。課題分析には大きく分けて 2種類存在し、課題を解決する前に必ず学習しておかなければならぬ知識・スキルを“本質的的前提条件”というのに対し、課題解決を容易に行うために必要な知識のことを“補助的的前提条件”という。 p113-114

4)学習者にとって、学習者が習得する(すべき)スキル・概念などを“教科内容”という。また、教科内容を具体化した素材や事実を指し学習者の学習活動の対象となる物を“教材”といい、その学習活動に用いられる(教科内容を教えるための)道具・ツールなどを“教具”という。 p116-117

(2)→「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

1/2 ページ 1702 文字 日本語 アクセシビリティ: 問題ありません

130%

+15 橋 清 豊 閑 水 小



# ICT活用例

General - 会議中

01:22:29

制御を要求

退出

参加者

名前を入力

招待を共有

20mICTPlan (3).docx - Word

2.→テーマ①  
いじめや病気などにより登校困難となった生徒に対して Google classroomなどを用い授業のログを配布する。

3.→ICT活用のねらい②  
・いじめや病気などで登校困難となった生徒の学習の遅れを最小限に抑える。  
・不登校となることによる学習面の不安を取り除くことにより、いじめが原因となる精神障害などの重大な問題が起きる前に一時的ではあるが対処法としての登校拒否を行いややすくする。  
・学習面での遅れを押さえることにより復学のハードルを下げる。

4.→ICT活用例③

| 学習内容                          | 指導過程・学習活動  | 指導上の留意点  |
|-------------------------------|--|--|
| ICT活用の場面④<br>(登校困難となった生徒に対して) | ICT活用の手順⑤<br>○登校困難となった生徒にGoogle classroomを登録させる。<br>・インターネット回線のない家庭には学校からタブレット端末を貸し出す。<br>○各教科の教師がその日行った授業内容の板書の写真またはその元となっているカンペのノート、配布したプリントのデータを担任に渡し担任教員より生徒へ配布する。<br>・質問などがある場合は classroom のコメント機能を用い受ける。<br>○いじめが原因で不登校となっている生徒に対してはコメント機能を用い相談なども受ける。 | ○教員自身の混乱を避けるため資料配付は担任が一括して行う。<br>○各教科の教員からその日の授業の注意点や重要な点などをあらかじめ聞いておきコメント機能などを用いて生徒に伝えより学習を行いやすくする。<br>○相談に関しては文面のみのやりとりは不適であるため実際学校に来て相談を行う予定があるメソ |

1/2 ページ 640 文字 日本語 100%

+15 清 松 豊 関 水 村 橋 漢

# ICT活用例

01:34:07 "General" で会議中

制御を要求

退出

20miCTPlan (3).docx - Word

参加者

名前を入力

招待を共有

八幡

ひかる

大和

建樹

蒼

誠人

百花

隆斗

恭二

駿斗

優衣

八幡

ひかる

大和

建樹

蒼

誠人

百花

隆斗

恭二

駿斗

優衣

2.→テーマ

いじめや病気などにより登校困難となった生徒に対して Google classroomなどを用い授業のログを配布する。

3.→ICT活用のねらい

- いじめや病気などで登校困難となった生徒の学習の遅れを最小限に抑える。
- 不登校となることによる学習面の不安を取り除くことにより、いじめが原因となる精神障害などの重大な問題が起きる前に一時的ではあるが対処法としての登校拒否を行いやすくする。
- 学習面での遅れを押さえることにより復学のハードルを下げる。

4.→ICT活用例

| 学習内容             | 指導過程・学習活動   | 指導上の留意点  |
|------------------|---|--|
| ICT活用の場面         | ICT活用の手順  | ○教員自身の混乱を避けるため資料配付は担任が一括して行う。  |
| (登校困難となった生徒に対して) | ○登校困難となった生徒に Google classroom を登録させる。<br>・インターネット回線のない家庭には学校からタブレット端末を貸し出す。<br>○各教科の教師がその日に行った授業内容の板書の写真またはその元となっているカンペのノート、配布したプリントのデータを担任に渡し担任教師より生徒へ配布する。<br>・質問などがある場合は classroom のコメント機能を用いて受けれる。<br>○いじめが原因で不登校となっている生徒に対してはコメント機能を用い相談なども受けれる。 | ○各教科の教員からその日の授業の注意点や重要な点などをあらかじめ聞いておきコメント機能などを用いて生徒に行えり学習を行いやさしくする。<br>○相談に関しては文面のみのやりとりは不適であるため実際学校に来て相談を行う予定があるメモ。 |

+15 松 豊 関 水 村 橋 中

## 各班ワークシート (模擬授業まとめ)

改善したこと、すべきことを書くこと (指導案の要約ではない)

## 1) (班内) まとめ

班のテーマ (ICTの活用例)

## ■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

全单元

- いじめや病気などで登校困難となった生徒に対して Google Classroom/Google を用いて授業のログを配布する

## ■目標、内容・指導の概略等

- 登校困難となった生徒の学習面での遅れを最小限に抑える
- 登校拒否に対するハードルを下げていじめに対する対処法としての担任をアシザイアス
- 復学のハードルを下げる

## ■教材・板書計画、評価の観点・規準等

タブレット端末

## ■工夫した点、出典等

ICTがいじめ問題に有効なツールとなるよう工夫した

## ■模擬授業を実践してみて感じたこと、わかったこと

模擬授業を行っていいため  
記入はいかえます

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 自身のアイデアが既に疑問として挙がっていることにどういった

2\*\*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 授業の目標設定と評価は密接に関連しており 評価の結果は教育課程の改善につながる

2\*\*) 今日の授業で、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 今回自分が主張した内容は皆から アイデアとしては考がれているとのこと。 現在感じているのが自分が小学校の頃と比べネット環境は大きく変化しているため少しでも実現できたらいいなと感じた。

# 確認問題03

01:36:06

"General" で会議中

自動保存 インデックス 検索 フォルダ ホーム 挿入 描画 デザイン レイアウト 参考資料 差し込み文書 校閲 表示 ヘルプ 書式 検索 共有 コメント

退出

参加者

名前を入力

招待を共有

\*\*) 確認問題 02 を自己評価し、  
気づいたこと、感じたことをのべよ  
■ 5段階自己評価 ( 4 )  
■ 教育は教員が一方的なものではなく、生徒  
主体となって集団で学び、実生活に必要な  
知識を学ぶことが重要であると気付いた。  
(3)「わかる授業」との対比で川合章が主張した「た  
のしい授業」の主張に込められた3つの意義を簡  
潔に述べよ。  
・子どもたちを単に知識の受け手として受動的になら  
せる傾向を反省してなされたもの。  
・多様な学習形態を通じて学習を深めいくという  
努力を重視している。  
・子どもたちの学習を個別的にし、集団の役割を  
見逃している。

氏名 \_\_\_\_\_

学生番号 \_\_\_\_\_

+15 豊 関 水 村 中 橋 北 野 演

英語 (米国) ビデオアクションリテラシー検討が必要です

フォーカス 開始

157%

The screenshot shows a Microsoft Word document titled "教育方法 確認課題③.docx". The document contains a handwritten note in Japanese and a list of names. The note discusses the concept of "enjoyable education" (たのしい授業) and its relationship to "understanding education" (わかる授業). It highlights three main points: 1) children as active participants rather than passive recipients of knowledge; 2) encouraging various learning methods; and 3) avoiding overlooking individual student needs in favor of group dynamics. Below the note is a list of names, each preceded by a small circular icon.

## 各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ  
各問のポイント

■問 1  
知識觀と系統性  
問題解決の質

この 2 つは、問題解決論争で争われた  
2 点である。

## ■問 2

平岡亮蔵 … 態度を中心とした三層説  
勝田守一 … 認識能力を重視した  
計測可能学力説  
中内敏夫 … 広義の知識が学習者によってな  
された状態を習熟と呼ぶ  
段階説

## ■問 3

子どもの主体性を重視し、集団の役割を果  
たせるよう、多様な学習形態を作り、  
学習を深める。

## ■問 4

「学力における基礎についての 4 つの解釈」  
を中心に「中心課程を設定すること」が  
必要である。

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと  
思ったことをのべよ。

■ 学力解決論争は重視する点れいは  
考え方の違いにより、学説や論争が  
起る。

2\*\*) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り組む時間や、問題内容と発表班との関係などについて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■ 問題解決論争を確認問題をする  
ことで簡単にまとめてみることができます。

2\*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ  
よ。

■ 学力の向上を意識するのか問題解決  
能力の向上を意識するかで論争が始  
まっている感じ。